

ひろがる! ピアサポーター

特集



精神障害の当事者でありながら、同様の困難を持つ方の支援に取り組む「ピアサポーター」。栄仁会ではこの活動に先駆的に取り組んできました。いまや支援の輪を支えるかけがえない存在となった「ピアサポーター」の代表お2人と、ピアサポートと共に活動いてきたスタッフ3名に、座談会を行ってもらいました。



福徳 理恵 (ふくとく りえ)

精神保健福祉士



山崎 理恵 (やまざき りえ)

精神保健福祉士・相談支援専門員



太田 智之 (おあた さとし)

精神保健福祉士

当事者の「思い」から始まった

Q 「ピアサポーター」という言葉自体になじみがない読者も多いと思いますので、まずそこから説明をお願いします。

山崎 「ピア」は英語の「peer」で、「仲間」という意味ですね。ピアサポートは「仲間によるサポート(支援)」という意味になります。つまり、同じ立場の人を支えるのが「ピアサポート」です。それに取り組む当事者が「ピアサポーター」になります。

太田 がん患者やアルコール依存症患者同士のピアサポートなど、さまざまなものがあります。栄仁会の場合は、精神障害の当事者が同じ立場の人を支援するピアサポートになります。

福徳 栄仁会でピアサポーターの取り組みを始めたのが2016年です。8年目になりますね。もうすっかり定着して、現在11名のピアサポーターが活動しています。

Q その中から、今日はお2人のピアサポーターさんに代表参加していただきました。

よしみ&じゃまいか よろしくお願ひします。

Q 精神科のピアサポーター活動として、栄仁会の取り組みはかなり先駆的だったようですね。

山崎 そうですね。栄仁会で始めたころ、京都府の事業所や医療機関ではまだまだ少なかったと思います。

Q 厚生労働省が「ピアサポーター活動を推進してくれ」と要請してきたことから、取り組みがスタートしたのですか?

福徳 「精神障害を持つ人が地域で自立できるように支援していこう」という国の政策があるのは事実ですが、栄仁会として取り組み始めたきっかけは、当事者の「思い」にあるんです。

山崎 その当事者というのは、栄仁会の「生活訓練いろ